

令和5年度 第3回甲府市食育推進計画協議会 議事録

- 1 日 時：令和5年11月28日（火） 午後7：00～午後8：20
場 所：甲府市役所本庁舎6階大会議室
- 2 出席委員：13名
浅川委員、江頭委員、遠藤委員、古閑委員、集堂委員、高野委員、武井委員、深沢委員、服部委員、平井委員、松田委員、望月委員、山縣委員（50音順）
- 3 欠席委員：3名
志田委員、中澤委員、藤巻委員（50音順）
- 4 傍聴
0名
- 5 議事
(1) 第4次甲府市食育推進計画素案について
(2) 第4次甲府市食育推進計画目標指標（案）について
(3) その他

■議事内容

(1)第4次甲府市食育推進計画素案について

基本方針2「りん」表現の一部変更について	
≪事務連絡説明≫	
議 長：	事務局からの説明が終わりました。ご質問ございますか。
≪質問なし≫	
議 長：	議事（1）「第4次甲府市食育推進計画素案について、事務局より説明をお願いします。
≪事務局説明≫	
議 長：	次期計画では、関係者通しの更なる連携なども必要になってくると思います。各分野において、実施している取組や、今後、充実を図ることができる取組など、ご意見がありましたら、お願いします。
委 員：	市民の皆さんに伝えられる、健康日本21（第三次）のキーワードがあれば教えていただきたいです。 また、ライフステージごとの目標を明確に、伝えていくことが必要だと考えていますが、壮年期までと高齢期では、BMIの考え方が異なるなど、わかりにくいことがあります。どのように伝えていくか、教えていただきたいです。
委 員：	まず、健康日本21（第三次）では、基本的な目標として、健康寿命の

	<p>延伸と健康格差の縮小が示されています。本素案にも「自然に健康になれる食環境づくりの推進」とありますが、まさにこれがキーワードであり、多様性を把握し、誰一人取りのこすことなく、健康に、幸せになれるような社会づくりが、今の国の施策だと理解しています。</p> <p>また、胎児期から高齢期に至るまで、生涯を経時的にとらえた、ライフコースアプローチの観点が取り入れられています。胎児期から乳幼児期の様々な環境が、将来の健康に影響を及ぼすD O H a D (Developmental Origins of Health and Disease) の概念です。例えば、出生体重児の問題は、成人期の生活習慣病にも関連性が強く示唆されています。その対策として、出産を希望する女性の標準体重の維持、喫煙等、個々の生活習慣を見直すなど、世代を超えた健康対策が必要です。</p> <p>BMIについては、考え方が変わるというよりも、高齢期では、食事からたんぱく質をしっかり摂り、低栄養状態を避け、健康寿命の延伸につなげていくことが必要となるという理解をしています。</p>
委員：	<p>高血糖状態者についてですが、HbA1cが保健指導値以上の市民が7割以上となるのであれば、生活習慣の中で根本的な対策をしていく必要があると思います。甲府市の課題とするなら、生涯を通じてのアプローチを考え、子どもの頃からのアプローチが必要ではないかと思います。</p>
委員：	<p>小児期からの対策が必要だと思います。</p> <p>学校では、甲府市学校腎臓検診や生活習慣病予防健診等を実施しています。改善が必要な子どもは、食事、運動、睡眠全ての生活習慣を見直さなければなりません。自覚症状がないと改善は難しい状況です。医療機関や学校だけでなく、行政からのフォローもあればありがたいと思います。</p> <p>また、物価高騰による、給食の状況を危惧しています。現場の状況を教えてくださいたいです。</p>
委員：	<p>子どもの生活習慣病については、コロナ禍等の影響により、家庭で過ごす時間が長くなっており、運動する子が減っていることが、一番の要因なのかなと考えております。</p> <p>栄養教職員から、給食の食材費は、厳しいという話はしています。工夫をする中で、調節しているとうかがっています。</p>
委員：	<p>子どもたちの運動の機会の減少は、コロナの影響が大きいと思います。</p> <p>市立小中学校の給食の食材費につきましては、市が補助し対応していると承知しているところです。</p>
議長：	<p>それぞれの基本施策の、「みんなで進める食育の取組」に対しての意見はございますか。</p>
委員：	<p>自然と健康になれる食環境づくりの推進では、子どもたちの給食や特に家庭の食事について啓発が必要などに加えて、経済的な格差によって、きちんとした食を摂取できていない子どもたちへの対応をどうするかも重要だと考えます。</p> <p>さらにもう1点、山梨県は外食が多いところです。また、コロナ禍に充実してきた中食ですが、野菜の摂取量の増加や減塩、脂質の減少などに取り組んだ場合のインセンティブなどを、関係者の皆さんと一緒に考えていけるといいのではと思います。時間はかかるかもしれませんが、ポスターなどを掲示するなど、甲府市が、自然に健康になる食環境づくりに市全体取り組んでいるという雰囲気を作り上げていけたらと思いました。</p>

委員：	「半農半X」について紹介させてください。 どちらかと若い人たちの取組となりますが、生活のベースとして農業に従事し、残りの時間を、自分の生きがいなどに時間に費やすという生活です。 高齢者の健康づくりにも役立つ考え方だと思います。例えば、家庭菜園をし、野菜などを育てると、次に、自分で食事を作り、おいしく食べたいと思います。 山梨県の高齢の方は、農業に従事している方が多いです。朝しっかり起きて、働くとお腹がすき、そして夜になると、疲れて眠るという健康的な、非常に良い生活になります。健康は、目的ではなく、生き生きと豊かに生きるための手段です。悔いのない人生を生きるためにはどうしたらいいか、Xの時間で、実践し、考えることが重要です。「半農半X」は、高齢者の活動に結びつけば面白いかなと私は思っています。
議長：	素案の構成、内容につきましてはよろしいでしょうか。 ありがとうございました。

(2)第4次甲府市食育推進計画目標指標(案)について

議長：	続いて、議題（2）「第4次甲府市食育推進計画目標指標（案）について」事務局から説明してください。
《事務局説明》	
議長：	事務局からの説明が終わりました。ご質問やご意見ございますか。
委員：	食生活改善推進員の活動について教えてください。
議長：	事務局からお願いします。
事務局：	本市では、今年度462名が活躍されています。28地区に組織があり、市全体の活動の他、地区ごとに様々な活動をしています。 食生活改善推進員になるためには、本市で開催している「養成講習」を受講いただく必要があります。 ピンクのTシャツやエプロンを着用して活動しており、コロナ禍においては、調理や試食を伴う活動が難しかったので、地域のスーパーや直売所での啓発活動に尽力いただいております。 今回の市民のアンケート調査結果から、食生活改善推進員の皆さんを知っていると回答された方が3割ほどでした。今後も活動の幅が広がり、認知度の向上につながっていけばと考えております。
議長：	直売所などでの取組について、ご紹介をお願いします。
委員：	直売所では、食生活改善推進員の皆さんに特売日に食育のPRをしていただきました。
議長：	その他、食生活改善推進員の活動についていかがでしょうか。
委員：	保健衛生分野の健康づくり団体について、山梨県では、愛育会と食生活改善推進員の2団体が挙げられるかと思います。 食生活改善推進員は山梨県の全市町村にいらっしゃいます。 全国の組織であり、広域的な活動もしています。「私達の健康は私達の手で」をスローガンに活動をしており、県では、味噌汁の塩分測定調査を長年実施し、結果をマップで表し減塩の普及啓発に取り組んでいます。 「食」が付く名前になっていますが、健康づくり全般の活動を実施している皆さんですので、広く連携していただければと思います。
議長：	ありがとうございました。

(3)その他

議長：	その他となりますが、全体を通して、委員の皆様からございますか。
委員：	近年、共働きのご家庭が増えてきて、1歳前から幼稚園に入園する方がとても多くなりました。 小さい児の食事は、30分から40分程度の時間がかかります。朝食については、内容よりも、食べて通園しているだけで保護者をねぎらう状況です。給食の役割が大きいことを痛感しております。 物価高騰については、私立の園では、とても影響を受けています。特に小麦の値上げ、牛乳・乳製品の値上げに対しては顕著です。 また、先ほどお話があった、「DOHaD」について、関心があります。最近、こだわりが強い子がクラスの2割ぐらいを占めるようになっていきます。食に関しては、どこの園も苦戦しているのが現状です。
委員：	食環境づくりについては、本当に時間のかかるお話だとは思いますが、広めていくことで、甲府市が豊かな食生活を支えている市になるのではと感じました。
委員：	最近、食中毒のニュースが多くなっています。 甲府市保健所でも、リスクコミュニケーションや食品の安全性に関する情報提供を実施されていますが、食品の安全を浸透させていくためには、リスク、危険を見極める目を持つということがとても大事だと思います。 食品の安全も生活習慣病の予防も、学習や教育が必要だと考えます。 食の安全に関しては、生活衛生業務課から、様々な情報を発信していただきたいと思います。
委員：	目標指標に生活習慣病の予防や改善のために、適正体重の維持や減塩等に気をつけることが挙げられています。HbA1c以外にも高血圧のリスクが県全体で多いと認識しています。運動不足なども要因ではありますが、食育の観点からは、減塩が必要かと思います。減塩についての具体的な取組は、情報発信などの中に含まれているという考えでしょうか。
事務局：	減塩につきましては、取組の中に含まれております。表現を工夫し、素案に反映していきたいと思っております。
委員：	甲府市等の農産物を通して、旬やおいしさ等を発信していきたいと思っております。また、販売の場では、ポップやリーフレットを活用して、情報の発信をしていきたいと考えています。 公設の市場では、保健所の抜き打ち検査も受け、食の安全安心の確保に取組んでいる。
委員：	今回の素案に「共食」が入っていませんでした。みんなでコミュニケーションとり、思わず笑顔が出る「共食」は、重要だと思いますが、いかがでしょうか。
事務局：	ライフステージごとの施策の「みんなで進める食育の取組」に「共食」の要素を表現はさせていただいたところです。改めて、共食の考え方について、盛り込むような表現ができるように、考えていきたいと思っております。
委員：	「家族や仲間等と共に、食を楽しむ」といった表現が入っています。 計画は、大きな方向性を示すというものですので、実現するための具体的策として、「共食」も重要な要素のひとつだと思います。
議長：	他にはないでしょうか。 特にないようでしたら、ここまでのご意見を受けて、事務局からございますか。

室 長： 現場の実態及び多岐にわたるご意見をありがとうございます。
いただきました、ご意見の中から、減塩や共食につきましては、計画書
において、どのように表現していくか考えていきたいと思ひます。
今後、事務局で検討し、会長に相談させていただいた上で、反映したものをパブリックコメントにかけさせていただきます。
将来を見据えた食の重要性や、ライフステージごとに、どのような課題があつて、その対策を市民の皆様には周知していくことの重要性、或いは、長い道のりにはなりますが、事業所等と連携した自然に健康になれる取り組み等、様々な観点からいただきましたご意見を反映しながら、具体的な施策を進めて参りたいと思ひます。引き続きご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

議 長： 以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思ひます。
ご協力、ありがとうございます。